

## サステナブルな社会の実現に向けて 環境活動から始まる絆づくり、街づくり

した団体がネットワークをつくっていく。そうした有機的なつながりをつくって、コープさっぽろとしての森づくりの新しい形を示していければ、そこから生協の実際の事業への関係性が出てくればいいと思います。

### ペレットから始まる、 道内の新しいつながり。

**酒井** 札幌市には次世代エネルギーパーク構想というのがあります。円山動物園はエコな取り組みのショーケース、ショーウィンドーとなって、新しい省エネルギーの展示をしていこうというものです。数年前から太陽光パネルや風力発電をつけたりするなかで、新しい試みとして、秋に動物科学館に「ペレットボイラー」を導入しようということになりました。札幌市が一大消費地としてペレットを公共施設の中に入れてニーズをつくり、間伐材が回って森を守るしくみをつくろうという考えです。

このボイラー自体は民間企業の寄付によるものですが、今後新しい獣舎にも入れていきますし、動物園だけでなく札幌市の環境局・教育委員会などの施設に入れていく計画です。

**柿澤** ペレットは生産地と消費者をうまくつなぐ回路が作れていない、作っても市場がない状況です。山村ではペレットだけではなく、さまざまな農産物・林産物を生産して地域の生活を成り立たせています。ですから、環境と地域づくりを、地域を支えるための消費者の生活のあり方という観点で結び付けてくれればいい。ペレットは使うことで自分たちのエネルギーの使い方、山で起こっていることを知るきっかけになり、いろいろな広がりが出てくる、非常に大事なものだと思います。



**大見** ペレットを普及させるには、機器の問題もあります。北海道の施設で使うなら集中暖房にしなければなりませんね。

**柿澤** 家庭用ならペレット、大容量で使うところは木材をチップ状に細かく砕いて使うなど、使い分ければいいですね。機器は改良されてきましたし、森林資源が豊かにある地域で使えば、その施設が地域循環の拠点みたいな役割を果たせると思います。

**酒井** 札幌市側はスタートを切ったので、生産者側と消費者側の気持ちをうまくつながないといけません。気持ちだけ先走って生産が付いてこれられないと、せっかくの素晴らしい取り組みも途中で頓挫してしまいます。

**柿澤** そういう意味ではコープさっぽろさんは両方をつなぐ位置にありますね。ペレットも最近安い輸入ものが入ってきていますが、皆さんに道内の市町村の森を支えたいという思いがあると思うので、生産者の顔が見える関係をつくれるといいのですが。

**大見** 分散型、地域経済主導にどんどん変わっていくと思うんですよ。そうすると私たちの役割は結構大きくなるだろうと思っています。行政が政策として、環境対策としてペレットストーブなどを仕掛けるならば、宣伝のときに私たち産業界も一緒にできれば、インパクトがあると思います。

**酒井** 札幌市の方で業界にも呼びかけてはいるのですが、それがインパクトを持って伝わっていないということですね。宣伝は私たちのところがショーウィンドーになりますので、協力していきたいですね。円山動物園のペレットのボイラー室はアクリルで見えるようにして、展示を兼ねた施設を考えています。

**大見** コープさっぽろが秋に建てるエコ店舗では、日本で初めてCO<sub>2</sub>の冷媒で冷気を回します。動物園にも冷設があると思いますが、どうしていますか。

**酒井** 園内にある遊園地を夏の営業で終えて取り壊した跡に、アジア館とアフリカ館を建てることになっています。今の熱帯動

物館はアムールトラやユキヒョウなど熱帯ではない動物がいて、熱効率が非常に悪い。アジアはつながって熱帯と寒冷なところがありますから、きっちり生息区域別に分けて環境を変え、暖房が必要なものにはペレットなど、涼しいところの生き物には雪冷熱を検討しています。そこも公開するいいモデルになりそうです。

### 持続的な活動とするには 経済性と両立するしくみを。

**大見** 経済性が見えないと、持続的な大きな流れになりません。例えば、新店を完全に道産材の間伐材で作ろうとすると1億円のコスト増になります。経済性が合わないのをどう解決するか、問題提起という形でやるのはいいけれども、教育機能と、経済性の整合性をどう取るかが難しい議論です。そういうことを北海道で暮らす皆さんに提示して気付いてもらって、国の政策議論に位置付くようになっていけばいいですね。

**柿澤** 海外との競争に生き残ろうとすると、大規模な工場を作ってしまう方向に行きがちですが、それをすると中小企業が淘汰され、山村から工場が撤退していきます。そうではなく地産地消のような形で、もっと現実的な経済性に見合った形で回すしくみを作れないでしょうか。ある程度しくみができて需要が出ないとコストは下がりません。ニワトリが先か卵が先かになってしまっていますが、お互いに努力すればこのぐらいまで行けるという目標図と一緒に描ければいいと考えています。

**大見** 助成金や補助金もありますが、それに頼っても根本的な解決になりません。経済として回るしくみができることが重要です。コストが1億高くなるなら、それを変えようと訴えて、組合員からお金を集める方法もあると言われたことがあります。これはグリーンファンドで、運動としてですね。



**柿澤** コープさっぽろさんは運動体だということに、他との違いがありますね。

**酒井** 円山動物園では今年度、市民・企業合わせて3,000万円くらいの寄附をいただいています。繁殖したオオワシを自然に帰したり、応援する動物のえさ代としていただいたり、ただし今はしくみがなくて、全部別の街づくり基金と一緒にになってしまうので、来年度以降に基金を作ることになりました。私としても皆さんの気持ちを具現化したいので、いろいろなメニューがあって、どれに寄附をいただくのかわかるようなしくみにしたいと考えているところです。

### 生協が結び、動物園が発信。 環境のネットワークをつくらう。

**酒井** 円山動物園は昔から道民の皆さんの動物園です。これだけの集客性がありますので、ぜひ皆さんに利用してほしいと思っています。今は霧多布湿原トラストや西興部村などの野生動物保護の活動をしている団体と、我々が活動を支援して、逆にその活動を円山動物園に来て発信してくださいという連携協定を結んでいます。全道の環境への取り組みを、動物園を通じて発表するというコンセプトです。

まさに全道のいろいろなところとネットワークをお持ちのコープさっぽろさんですから、メディアとしての役割を果たし、面白い取り組みを動物園をショーケースとして発表していただく活動を一緒にやっていただきたいです。いろいろな取り組みを動物園を通じて発信できますし、こちらネットワークすることによって例えば新しい動物知識やノウハウを蓄積できるなど大きなメリットがあります。

**柿澤** 未来の森プロジェクトで助成した団体ともいろいろな関係がつけられ、蓄積されているので、意識的にやればネットワークができます。円山動物園の取り組みと連携して、北海道全体で環境を守るネットワークづくりや、それを発信することを一緒に進められたらいいですね。

**大見** それなら、ぜひ委員長は柿澤先生に(笑)。地域は目の前に現にあるもので、我々は目をそらしたらいけないし、我々の次の世代に対して恥じないことをどこまでできるかということが今生きている人間の責任です。決して大きなことができるとは思いませんが、ささやかなことでも、きっかけ、出発点としての役割は果たせるはずですよ。そういった意味で、積極的に前に出ていくことを引き続き考えていきたいと思っています。